

戦後日本の社会思想史

近代化と「市民社会」の変遷

小野寺研太著

戦後日本の社会思想を「市民社会」をキーワードに辿り、「近代化」の意味を捉え返す。ここではまず市民社会概念を戦中期の統制経済論と生産力論から説き起こし、続いて講座派マルクス主義理論の市民社会概念への影響を、戦後積極的に展開した内田義彦に焦点を当てる。さらに、丸山眞男、松下圭一、平田清明、見田宗介らの言説を検証することで、戦後社会の文化変容や自治意識、大衆社会論、ユートピア論などに表れた近代の「思想範型」を明らかにしてゆく。近代の機制のあり様を批判的に解明しながら、市民社会という社会認識を体系的に掘り下げ、戦後日本の「近代化」をめぐる思想史に。

小野寺 研太
Kenji Ono

戦後日本の社会思想史

近代化と「市民社会」の変遷

ISBN 978-4-15-201111-1

B6判／316頁／3400円

以文社